

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和2年11月4日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	12	(依頼数)	17
地域アンケート	(回答数)	2		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870501230
事業所名	グループホーム 桜
(ユニット名)	桜 2階
記入者(管理者)	
氏名	田中 秀仁
自己評価作成日	令和 2年 10月 1日

<p>【事業所理念】※事業所記入 私たち桜の職員は、入居者の皆様が少しでもご自分らしい以前の生活をとり戻されるよう誠心誠意支援いたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 気候や天候を見ながら、散歩がてらに外に出て一緒に話ししたり、庭の花や緑を見て自然を感じていただいたりしました。誕生日のケーキを買いにや、羊炊き用の食材を買いに一緒に出かけました。食べ物のことを皆さんに伺って、好きなものや懐かしいもの等、ご意見を伺っています。伺った内容を栄養士に提出や相談しており、現在提供されている食事等の中に取り入れられていると思います。玄関の掲示板に設備や機器に関すること、職員の異動等、必要時に掲示し、運営推進会議で報告しています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 COVID-19感染予防で、夏祭り中止となったことから、事業所内に提灯などを飾りつけ、ジュース・たこ焼き・ヨーヨー釣りの屋台を出して、利用者と一緒に楽しむ機会をつくった。 今年度はCOVID-19感染予防のため、地域交流は中止しているが、7月の七夕には、團圓から七夕飾りをもったり、今年10月には、以前から交流のある中学校の吹奏楽部の生徒が中庭で演奏会をしてくれ、利用者には喜ばれた。 食事は、法人の厨房から副菜が1～2品が届き、事業所では、主食や汁物、主菜を作っている。現在、調理は、法人の厨房から徐々に事業所で行えるよう移行中である。利用者は調理の下ごしらえや盛り付け、下膳、食器拭きを行っている。調査訪問日の昼食は、利用者がおにぎりについていた。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らしの希望、意向の把握		<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないよう留意している。</p>	◎	<p>◎ 利用者やご家族に入居時や入居後も適宜お話を伺っています。ご本人に関するレポートを頂戴いただけてもおり、何が好きて、どのようなことが嫌いで、趣味は等ご本人の個性や以降の確認に努めています。</p> <p>◎ 過去の情報や以前に本人が言われていたこと、ホームでの様々な様子から検討している。</p> <p>◎ 家族や面会に来られる方等とお話し、本人の思いを把握しようとしています。</p> <p>◎ 入居時の書類、ケアプラン、日々の記録に記載している。</p> <p>◎ 日頃の様子、会話、変化等、細かく記録し、職員間でも常々話し合っており、そういうことのないよう気を付けています。</p>	◎		◎	<p>◎ 入居時、本人・家族の希望を聞いて、フェースシートの相談内容欄に記入している。日々の中で聞いた希望などは、介護サービス計画書の利用者・家族の生活に対する意向欄に記入している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握		<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	◎	<p>◎ 入居前に必ず面接し、ご本人やご家族から生活歴、環境、サービスの利用等伺ったり、ご家族から簡単なレポートをいただいたり、ケアマネより情報をいただく等しています。</p> <p>◎ サービス提供記録に、一日のご本人の状態を記録して把握しています。また、定期的にADL等の確認と見直しを行い記録しています。</p> <p>◎ そのような場面や状態をサービス提供記録に記載し把握しています。</p> <p>◎ 前後の状態を含め職員間で検討し、要因の把握にと努めて解消を図っています。</p> <p>◎ 一日の利用者の状態を、サービス提供記録に、勤務シフトに応じて各職員が詳細に記録し、細かい変化も逃さないように気配りしています。</p>	◎		◎	<p>◎ 入居前、主に管理者が自宅や利用している介護サービス事業所などを訪問し、本人や家族、関係者から生活歴やこれまでのサービスの利用の経過等について聞き、フェースシートにまとめています。利用者によっては、医療関係者や以前のケアマネジャーなどからも情報提供があり、フェースシートに記入している。家族には、生活歴・職歴・得意なこと趣味、性格等を記入してもらっている。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)		<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	◎	<p>◎ どの様に過ごしたいか、何をされたいか、直接伺ったり、職員同士話し合っており、こうしたいのではないかと検討している。</p> <p>◎ 日々の会、毎月の職員会議、サービス担当者会議等で検討している。</p> <p>◎ サービス担当者会議の中で、課題を上げ解決方法を探っています。</p>			○	<p>○ サービス担当者会議時には、利用者や家族から聞き取った要望や、利用者によっては、医療関係者からの助言を踏まえて話し合っている。</p>
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画		<p>a 本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。</p> <p>b 本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。</p> <p>c 重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。</p> <p>d 本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。</p>	◎	<p>◎ ご本人のご希望、ご意見、入居前の担当者であったケアマネからの情報を反映して介護計画を作成しています。</p> <p>◎ ご本人やご家族、主治医や職員等の意見を伺い、計画を作成しています。</p> <p>◎ 極力、その方のADLを維持し、持っておられる力を少しでも多く生かしながら、今まで過ごしてこられた日常生活を送っていただけるよう努めています。</p> <p>○ 地域の方々やご家族のご協力は重要で、行事や外出、受診や差し入れ等、役割を担っていただいておりますが、今年は感染症対策でできないところもある。</p>	◎	◎	◎	<p>◎ 本人、家族、職員、医療関係者の意見を採り入れて介護計画を作成している。本人の「家事などできることをしたい」という希望を踏まえて、繕いものや、食器拭き、洗濯物たたみなど、本人ができることを行えるよう介護計画に採り入れていくケースがある。</p>
5	介護計画に基づいた日々の支援		<p>a 利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。</p> <p>b 介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。</p> <p>c 利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。</p> <p>d 利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。</p>	◎	<p>◎ 作成時はもちろん、日々の記録をする際にも確認できるよう、カードに貼って共有しています。</p> <p>◎ 介護計画を実施できたか、結果、効果があったかどうか毎日チェックしており、職員間で状況を確認できおり、次の参考としています。</p> <p>◎ どのように過ごされたか、日々の介護経過記録を、ご利用者ごとに詳細に記録しています。</p> <p>◎ 詳細にご利用者の記録をする中で、気付いたこと、推察、実施したこと、結果どうだったか等、記入しています。</p>	◎		○	<p>○ カードに貼る個々に介護計画書を貼り、確認しながら記録することで共有している。</p> <p>○ 認知症対応型共同生活介護サービス計画達成状況(モニタリング表)に、毎日、支援の実践状況を◎×で記入している。</p> <p>△ 介護サービス提供記録(日々の介護経過記録)に言葉、表情や行動などを記録しているが、記録量は少ない。</p> <p>△ 介護サービス提供記録に記録しているが、口頭でやりとりすることの方が多い。</p>

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	それぞれの介護計画の期間に応じて、見直しを行い計画を作成しています。			◎	管理者が一覧表を作成して期間を管理しており、6ヶ月ごとに見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月の職員会議で現状に変化がないか確認しています。			◎	月に1回の部署会時に、利用者全員について話し合い、現状確認を行っている。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	心身の状態に大きな変化が生じ、現状の計画がそぐわない場合に見直しを行っています。			○	心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合はその都度見直すことになっているが、この一年間では事例はなかった。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月の会議と毎日の会の中で、その都度話し合いを行い解決方法を検討している。			◎	月に1回、2ユニット合同で部署会を行い、部署会記録を作成している。緊急案件があれば、数人の職員で話し合い、決まったことは申し送りノートに記入して、数日間申し送っている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	職員同士忌憚なく意見を交わし、前向きな話になるように進行に気を付けています。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	話し合ってから職員が多く集まれる日時になるようにしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容をノートにまとめて詳しく分かるようにしている。			○	部署会は原則、全員参加(夜勤者1名を除く)となっている。職員全員が部署会記録を確認してサインをするしくみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	朝、夕の会で申し送り事項を確認し、確実に伝達しています。			◎	医療に関することは、お薬指示ノート、家族からの伝言や業務、ケアに関することは申し送りノートに記入している。申し送りノートの内容は、朝夕の申し送りで共有し、職員がそれぞれ確認してサインするしくみをつくっている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	重要な申し送り事項はノートに記載し、申し送りをすると共に全職員がいつでも確認できるようにしています。	◎				
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	何をされたいか伺ったり、ご様子から類推したり、歌や音楽、テレビ、塗り絵等、好まれることを提示したり、希望で休まれたり、一日、仕事を楽しんでいただいたりしている。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	簡単な選択で選んでいただいたり、極力「どうしましょうか」と尋ねる等、ご本人の思いを尊重し意思を伺う努力をしています。			○	おやつや飲み物はお茶やコーヒーなどから選べるようにしており、コーヒーの砂糖やミルクはどうするか、風々に希望を聞いている。洋服をハンガーラックにかけ、利用者が自分で選べるようにしているケースがある。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	上記の通り積極ご希望を伺う努力をし、思い活かして、納得して生活いただけているようにしています。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	健康維持のために最低限必要なことや、家事のお手伝いをお願いしていますが、体調や気分がでないことも当然あり、無理強いはせず希望の場所で、その方のペースで過ごしていただいています。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うれし等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	◎	一緒に、お好きな物事についてのお話をしたり、笑いあったりできている。			◎	COVID-19感染予防で、夏祭りが中止となったことから、事業所内に提灯などを飾りつけ、ジュース・たこ焼き・ヨーヨー釣りの屋台を出して、利用者と職員で楽しむ機会をつくった。	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	日々の様子を職員同士で話し合い、こうではないかと、との推測を繰り返しながら生活いただいている。				◎	職員は、日々の会話の中で、利用者に曜日、季節、天気を探ねたり、利用者が興味がありそうなニュースを話題にしたしている。
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	日々のサービス提供時に気を付けているが、入職時や職員会議、併設の老健との合同研修会を行って意識が薄れないようにもっている。外部講師を招いて勉強する機会もあるが延期中。	◎	◎	◎	併設施設と合同の勉強会(9月の倫理・法令遵守について)時に学んでいる。調査訪問時、シルバーカーを押して移動する利用者には職員は笑顔で「ゆっくりでいいですよ」と穏やかに声をかけている様子がみられた。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさまな介護や誘導の声をかけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	◎	一人一人の尊厳を大事にし、さりげなく誘導や介助を行っている。				◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	なるべく他の方に分からないよう、見えないようできる限り配慮し、さりげなく声掛けや介助を行っています。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	利用者の居室は、その方のご自宅であると認識し、ノックや声を掛けさせていただく等、配慮しています。				◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員会議や、併設の老健との合同の研修会を行っている。日々の会の中で個別のケースについて職員同士で、話し合うこともある。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	「お願いしますが、それ持ってこないか。」「何でも言わんかいよ、したげるけんね。」と笑顔で言ってきたりもし、食器を運んだり、洗濯物、食器拭き等していただいたり、「助かります。」「ありがとうございます。」といつもお伝えしています。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士、別の方のことを気遣って下さることも多く、物を取ってあげたり、車椅子を押して下さったり、いつもにない表情を見せられることもあり、大事にしていきたいと思えます。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が見守る機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	◎	穏やかに楽しく過ごせる、なるべくトラブルにならないよう、席の配置や会話等に注意しています。利用者の特徴や関係性を把握し、仲の良い方同士一緒に過ごしていただき、孤立しがちな方に声を掛けられています。			○	仲の良い利用者同士が、居間のソファと一緒に座り、テレビを見たり、歌と一緒に歌ったりできるようにしている。自宅が隣同士だった利用者が別ユニットにあり、時折、居室を訪ねおしゃべりできるように支援している。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	当事者はもちろん、他の方にも大きな影響がでますので、職員が間を仲介し、トラブルの早期解消に努めています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	ご本人やご家族のお話、入居時にご家族からいただいているレポート、以前のケアマネからの情報等で適宜把握に努めています。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	地域との関係や馴染みの場所についても同様です。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ご家族のご理解ご協力で、散髪、外食、墓参り、買い物、一時帰宅、知人やご近所の方の面会も時折あり、馴染みの関係の継続ができていた。今は、感染症対策で難しくなっています。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでもお越しいただけるようご案内しており、まれに際には、ご希望に合わせて居室やホールで椅子やお茶をご用意し、ゆっくりと過ごしていただいています。今は難しく、ガラス越しの短時間の面会としています。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気や天候を考慮し、できる限りの努力で、希望にそって外に出て散歩や、外出行事、地元自治会行事へ参加し、ご家族のご協力もあり外出の機会がありました。感染症対策以下同文。	△	○	x	COVID-19感染予防のため、法人の方針で2月以降は外出は病院受診のみとなっている。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族の協力、自治会やボランティアの催し物参加等少しづつはありました。感染症対策以下同文。				COVID-19感染予防のため、法人の方針で2月以降は外出は病院受診のみとなっている。	
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子を押して職員がお話しながら散歩することもありました。感染症対策以下同文。他ユニットや老健への散歩や景色が見える場所での声掛けをしています。			x		
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族等のご協力で、ショッピングモールや外食、お墓参り等で掛けられたり支援しています。感染症対策以下同文。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひととき、取り除くケアを行っている。	◎	併設老健との合同研修で認知症に関する研修を行っています。個別の利用者の状態については、日々のミーティングや、職員会議等で検討してケアを行っています。					廊下の手すりを伝いながら、車椅子を自走する利用者に職員は後方から見守っている様子が見られた。今後も、さらに、室内で活動量を増やせるよう取り組みの工夫を重ねてほしい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	研修、勉強会の中で継続して学んでいきたいと思えます。日頃から日常生活の中でADLの維持、向上を図るべく生活リハビリを意識して取り組んでいます。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	日常生活の中で、できる方、出来る事はもちろんご自身で行なっていたり、できそうなこと等、見守りや場合によっては一つ一つの手順を声掛けする等、ご自身の力を発揮して頂けるよう努力しています。	◎		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	生活歴や生活習慣等伺っており、利用者とお話する際の話題にもなります。絵や工作をするのが好きだったり、歌が得意だったり、このテレビ番組が大好き、洗濯物を畳むのが得意等色々分かっています。				食器拭きや洗濯物たたみが日課になっている利用者がいる。午前中、みなで歌う時間を設けており、調査訪問時には、歌声が聞こえた。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	家事、手芸や工作等の手作業、塗り絵、歌等、それぞれにお好きなこと、やりがいのあることがあり、取り組めるよう準備やお勧めしています。利用者自ら「干したげよか。」と洗濯物を干して下さったりも、楽しみごとを支援しています。	○	◎	○		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域のお祭りや初詣等に参加しています。その際、地域の方々の方が声が掛けて下さったりし、皆さんとても嬉しそうです。感染症対策以下同文。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	身だしなみや服装にも個性が出ると思えます。好みがあったり、○○さんらしい格好だなと感じたりし、歳を重ねてもご自分らしく希望を尊重したお手伝いをしたいと思います。				現在は、COVID-19感染予防のため散髪やカットなどの支援が難しいため、職員と利用者で髪型を相談して、女性利用者にはピンで留めたり編み込みにしたりしている。 居室に化粧品や手鏡を持ち込み、洗顔後や入浴後にケアする利用者がいる。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	◎	ご家族の協力も得ながら、好みの服装を整えたり、持ち物を揃えたりしています。散髪に行かれない髪を染めたり、パーマを掛けたり、希望を伺いながら髪を切ってもらっていました。感染症対策以下同文ですが、希望を伺いつつ、髪形をまとめています。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	どのようにするのが良いかお見せしたり、一緒に考えたり、どちらが良いかお勧めしたりしています。「こちらが綺麗ですね」「似合ってますね」等の声掛けをすると、素晴らしい笑顔が見られています。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	季節に合わせた服装や、行事や外出に合わせて、ちよつとしたおしゃれをしていただいたり喜ばれています。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髪、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	さりげなく声掛けや後ほど片付ける等、その方のプライドや羞恥心に配慮しつつ支援しています。	◎	◎	◎		評価困難
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	△	ご家族と相談、ご協力いただきつつ馴染みのお店に行かれたり、来てくださったりしていました。感染症対策以下同文。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	ご家族にも相談しながら、今までにあるその方らしさが出るような服装を選択する等、工夫している。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の準備から片付けや、食事を摂取すること自体含め、重要な意味があると理解しています。				献立作りや食材選びは法人の管理栄養士が行っている。法人の厨房から副菜が1~2品が届き、事業所では、主食や汁物、主菜を作っている。現在、調理は、法人の厨房から徐々に事業所で行えるよう移行中である。利用者は調理の下ごしらえ(もやし根切り、里芋の皮むき、きのこをさく・ねじりこんにやくにする)や盛り付け、下膳、食器拭きを行っている。昼食は、利用者がおにぎりをつくっていた。 日・木曜日の朝食の主食はパンになっているが、米飯の希望があれば対応している。購入アレルギーがある人には、白身の魚、牛乳が苦手な人には乳製品・乳酸菌飲料にするなど配慮している。さらに、利用者にとって懐かしいものなども献立に採り入れて食事を楽しめるよう支援してはどうか。 茶碗や湯飲み、皿や箸などは各自が持参したものを使用している。また、利用者の状態に合わせて家族にスプーンや軽い食器を持参してもらい使用している。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事の準備や後片付け等、できる方はご自分の仕事のように思われ、どンドン手伝って下さっています。時にはアドバイスや指導をして下さったり、皆さんに助けをいただき和やかにやっています。			◎		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につながっている。	◎	簡単な盛り付け、後片付け等、できることをしていただき、感謝をお伝えすることで、満足感等の様々な表情が見られています。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ご本人やご家族から伺ったり、食事の進み具合を拝見し把握しています。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	アレルギーや苦手な物を配慮しつつ、交換や配慮している。季節や特別な行事に合わせた食材や食べ物を栄養士と協力して提供したり、鯛の塩焼きやお好み焼き等、皆さんに伺った懐かしいものも提供できています。			◎		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	少し柔らかめにする、硬い物だけ小さめにする等の工夫や、食事の時の様子や健康状態を観察し、主治医とも相談して食事の形態を考えている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居時から、今までの使い慣れた物、使いやすいそのような物を願っていて、持ってきていただいている。			◎		
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	同じテーブルで見守りやさりげなく声掛け、介助をしながら食事をしている。					評価困難
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者の集まるホールはキッチンと同じ空間となっており、炊飯器から上がる蒸気、食材を切る音、おかずを焼いたり炊けるにおいを感じていただけます。今日はどんなご飯かお話しして楽しみにされる、そんな雰囲気になっています。			◎		評価困難
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	1回1回の食事や水分摂取量を確認し、1日の摂取量を把握しており、体重の増減や主治医とも相談しながら、食事、水分の量等を調節できています。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	タイミングや回数を変えたり、ご飯が進むお好きそうなものをご購入や、食材の柔らかさ、ジュースの用意や栄養補助剤等、ご家族のご協力や主治医との相談を含め対処しています。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	併設老健の強みを生かして、管理栄養士が献立を検討、作成しており、栄養のバランスには不安なく対応できています。					◎
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	併設老健の栄養士、厨房の協力も得ており、毎年、食中毒予防の研修も行って、調理用具の消毒、食材、料理の衛生管理に努めています。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	老健と合同の研修でも勉強しており、重要性を理解しています。				定期的な話し合いは行っていないが、食事形態や調理方法などは、必要時に応じて法人の管理栄養士に相談したり、職員で口頭で話し合っている。 口腔ケア時に目視している。異常や訴えなどがあれば、受診につなげている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	毎日の口腔洗浄や利用者の様子から、状態を把握している。			◎		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	協力歯科院長より口腔ケアの研修を毎年受けていました。今年は感染症対策の為、延期中ですが、今まで伺ったことを活かして実施しています。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯を痛めないように手順を声掛けする等、洗浄いただき、每晚入れ歯洗浄剤を使用して清潔に努めている。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	毎食後に必ず、口腔洗浄をしていただいています。ご自身でできる方、見守りが必要な方、手順を説明する等し、なるべくご本人の力でいただいき、できない所を介助する等、それぞれに応じた支援をしています。					評価困難
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	適宜、分り次第、ご家族、主治医等とも相談。ご家族のご協力で歯科受診していただいたり、協力歯科院長に診ていただいたりできています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	おむつ減らしは重要課題と認識し、声掛けやトイレ誘導、夜間のポータブルトイレの利用等、可能な限り排泄の支援をしている。				月1回の部署会で利用者の現状確認を行う際に、話し合い検討している。 本人から「布パンツがいい」という希望があったことをきっかけに、職員で話し合い、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援することで、布パンツとパッドの使用で過ごせるようになった事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	何らかの疾患、水分や運動の不足等、様々な原因があり、食欲不振や嘔吐はもちろん、直腸等の腫瘍、腸閉塞等、重症疾患の恐れもあり十分注意が必要と思っており、主治医にも報告しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	必要な方の排泄は記録する等把握し、職員同士で申し送りしており、なるべくその兆候をや間隔を考慮して、トイレの誘導等できるように配慮しています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	トイレでの排泄を基本と考慮して、声掛けや誘導させていただいています。ミーティングや職員会議で、その方の状態や適切であるか相談しています。	◎	◎		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	日々のミーティングからどのようにすれば良いか、改善出来る事はないか常々検討しています。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	個々の排泄の間隔やパターンを記録や話し合っており、その状態に合わせて誘導しています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	ご本人やご家族に相談しながら、その時々に合わせて使いやすい物、適切な物を話し合っており選択しています。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	上記の通り、その方のその時の状態で検討しています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	管理栄養士の応援もあり、便秘に配慮した食事の工夫ができています。適切な水分の摂取や、運動不足が原因にならないようホーム内の歩行や外の散歩、各種レクへの参加をいただけるように努めています。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	入浴を楽しみにされている方、入りたくない方、週1回と決めておられる方と様々です。清潔保持の為にタイムリングや声掛けの仕方を考え、無理強いせず、皆さんに機嫌よく入浴いただいています。	◎		○	週3回程度、午後から入浴を支援している。 湯温や時間(長さ)はその都度、聞きながら支援している。入居前から、入浴の曜日と時間を自分で決めてくれるような人には、入居後も継続できるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	好みの湯量や熱さに調節しながら、体に無理のない範囲でくつろいで入浴いただいています。中には一緒に歌を唄ったり、のんびりと会話をされる方もあります。会話もはずみ、普段見られない笑顔もあります。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	危険のないようには職員がお手伝いしますが、ご自身で出来る範囲の更衣や洗身等の動作はできるだけいただいています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	前述の通り無理強いはいしていません。タイミングや職員が交代したり、楽しい会話や唄いながらや、違うお誘いの声掛け等工夫し、スムーズに入浴いただける場合もあります。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	その日の体調、バイタルサイン、それまでに出ている主治医からの指示、高血圧等、場合によっては直前のバイタルサインを確認し、入浴いただいています。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間いつからいつまで休まれ、良く休まれているか、どんな時に起きられているかを記録し把握しています。				睡眠導入剤を使用する利用者については、往診時に医師に睡眠時間などを報告して、相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	何らかの不安によるもの、日中の眠りすぎ等、昼夜逆転、排泄に関する場合等、様々な要因があり、日中の活動メニューを考えて声掛けを行う等、原因に応じて取り組んでいます。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	様々な対処を行いつつ様子を記録し、客観的な状態を主治医に報告相談しています。その上で主治医が必要と判断された場合にお薬の処方があります。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	ご希望やお勧めに応じて、居室のベッドで休んだり、ホールのソファやテーブルでゆっくりと過ごされたり、ご自身のペースで思い思いに過ごされています。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	ご希望に応じて電話の取次ぎやされる支援をしています。ご家族からも電話が良くかかってきますので直接お話しいただいたりもしています。手紙も同様です。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	ご本人やご家族等のご要望に応じて、職員が取り次ぐ等の支援をしています。				
		c	気兼ねなく電話できるような配慮している。	◎	他の方から離れて、場合によっては詰めの中等、椅子を設置してゆっくりお話しいただけるよう配慮しています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	ご本人に見ていただいて返信を促したり、ご家族にお伝えして相談する等しています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	ご協力をお願いしたり、手紙や電話をいつでも取り次ぎますとのご案内をして、やり取りをして頂いています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	一定金額所持されることで精神的な安定や安心される場合もあり、理解しています。				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	買い物と一緒にいくといったことはありましたが、日常的に、と云えるほどではないかもしれません。感染症対策以下同文。職員が代行して購入しています。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先への働きかけは今のところ特にはしていません。まれに前もってや行った先で説明させていただいたことはあります。感染症対策以下同文ですが、状況に応じて実施します。						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	全員ではありませんが、持っておられます。ご家族ともよく相談しており、今後もよく説明しながら金銭管理の在り方について取り組みたいと思います。						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	以前に色々なトラブルがあり、個人でお持ちの場合もありますし、話し合せて事務所で管理し出納の報告をしているものもあります。必要時にはお渡しでき、特にご不便なく推移しています。						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預かり金額を決めており、使用の明細が分かるようにして確認いただいている。						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	医療法人が母体で、老健併設での連携、メリットを活かし、各種種しへ積極的に参加出来る体制や、各職種の職員との協力関係、医療連携におけるスピーディーな対応等、単独のグループホームでは出来ないサービス提供もできており、ご本人やご家族に安心いただける大きな要因だと思います。	◎	△	家族と出かける際には、本人の外出準備を手伝うなどしているが、既存のサービスに捉われない柔軟な支援という点からは取り組みはあまりない。			
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	ウエルカムボードや行事等の予定や参加を促すボードを設置し、ガラス張りの中がよく見える明るい玄関になっています。	◎	◎	○	畑や山に囲まれたのどかな場所に位置する事業所で、老健施設などが併設している。事業所の玄関は掃除が行き届き、季節の花を生け、ウエルカムボードを設置している。		
		b	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室・トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みよさの心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものか置いてない移風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をつくような設えになっていないか等。)	◎	利用者が一緒に住んで喜ばれ、飾りたいと希望されたものや、テレビやソファ、テーブル、炊飯器や植物だったり、適度に物を配置しています。	◎	◎	◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	自然光を取り入れつつ間接照明を使ったり、その時々で明るさを調節や、窓や換気扇等での換気の配慮をしています。毎回の全フロアの掃除とワックスがけ、毎日の掃除を行っています。				◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。	
		b	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	家事の物音や季節ごとの飾りもありますが、何より窓が大きく、「今日は風が強いね」「雨が降りよる。」「雨が散ったね。」「夕日がきれいねえ。」等利用者が言ったり、その時々々の天候、季節、自然を感じていただいています。				◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。	
		c	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	十分な空間を確保して小分けにもできるテーブルや複数のソファを配置しており、それぞれの場所でお話されたり、趣味を楽しまれたり、休憩されたりしています。					◎	ユニットへの立ち入り制限があり、確認することができなかった。
		d	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	スライド式のドアを使用して適宜、開閉している。						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	好みや使い慣れた物を持って来ていただけるようご相談をしています。個人差があり、色々置かれる方やそうでない方もあります。希望でお好きな塗り絵や飾りを貼ったりして気に入られる空間にしています。	◎		◎	◎	ベッドから手を伸ばして取れる位置に、テレビのリモコンやタオルを置いたり、ベッドから見やすい位置に文字盤の大きな時計を置いたりしている居室がみられました。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	段差のない構造や、移動にしても、手すりを配置したり、場合によっては目印や張り紙をして、分かりやすくできるだけ、ご自分の力で安全に過ごせるように配慮しています。				○	トイレの扉には、大きく「トイレ」と書いた紙を貼っている。居室の場所が分からなくなる利用者には、居室入口の手すりに名前を書いた赤い紙袋とタオルを掛けて目印にしていた。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	似たような物、間違いやすい物を別の物に変更や、場所をかえたり、目印、張り紙等、工夫して生活いただきやすくしています。						
		c	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	日用品、レクや趣味の道具、新聞、雑誌等置いています。						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	鍵をかけることの弊害、身体拘束であることを理解しています。夜間は防犯目的での玄関施錠をしています。	◎	◎	◎	◎	日中は、玄関やユニットの出入口に鍵をかけていない。新人研修や法人内研修時に鍵をかけることの弊害について学んでいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入居時にご説明しており、特に問題なく了解いただけています。						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけたてずむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は鍵を掛けておらず、ドアベルを設置して分かるようにしており、今のところ特に問題ありません。						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時に必ず主治医より診療情報の提供を受けており、その内容を把握している。					/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日、バイタルサインを確認、記録しており、また、いつもの様子の違いを細かく観察、記録している。						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	協力病院医師や、看護職、主治医に、いつでも相談できる体制になっており、何かあった時にはすぐに指示を頂いて受診、入院の対処ができています。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入居時に説明し、ご家族のご協力を受けながら、希望の医療機関への受診を最優先で行っています。現在は、協力病院にない診療科のみ他院を受診される方がほとんどです。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	他院を受診される場合等、状態の報告や主治医からの診療情報をお渡しして受診いただけています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	原則、緊急の受診については、その都度ご連絡し内容の報告を行っています。また、往診等の内容についても、ご要望に合わせて、その都度連絡や、面会後に報告等しています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	その方に、どのような特徴があるか、ADL、一日の過ごし方等、「介護サマリ」の提出や口頭での詳細な状態報告等必ず情報提供を行っています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	協力病院と連携しており、情報のやりとりはスムーズです。病院医師からも入院中の状態を説明受けています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	医療法人設立のグループホームであり、この点は全く心配ありません。日頃から協力病院と連携しており、密接にやり取りできる関係です。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	協力病院医師の往診や回診、看護師の訪問もあり、その都度、気付いたことはちよつとしたことでも相談できています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	併設老健の看護職の応援や、協力病院医師に24時間連絡を取れる体制にあり、「普段と違う」と感じた場合等、素早い判断をもらうことができます。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるように体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者の状態を詳しく主治医と相談しており、状況に応じてどう対処すべきか指示もいただいています。また、連絡をとっていつでも相談できる状態にあります。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	お薬の服用方法や効能等、情報は医師からの説明や薬局発行の説明書で把握できています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	医師の指示通り間違いなく服用できるよう管理しており、その日その日の服用分をセットして、服用されるまで確認しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	服用による状態の変化やその後の経過等、様子を観察しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	服用によって変化があるのかどうか、どのような様子か観察した情報を、ご家族や医師等、毎回報告しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居前の説明時に、この点は十分な説明を申し上げ、このような状況が発生しそうな場合は、再度、主治医から説明していただき相談しています。				看取り支援の事例はないが、入居時、本人や家族から看取りについての希望を聞いている。医師が、重度化したと判断した場合は、家族、医療関係者、職員で話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居前や状況を見て協力病院、主治医等も含めて相談しており、ご本人やご家族、医療機関、ホームの連携が取れていると思います。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	いつ何が起ころか分からない方です。という主治医からのお話で、職員も引き継いで対応している場合もあり、できることを把握して対応しています。しかし、長いホームの歴史の中で、何かあると、協力病院の●●先生に、ということが多いのが現状です。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	どのような対応ができるかお話をさせていただいており、了解いただいています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	常にご家族や協力病院と連携しており、主治医の指示をいただきながら対応しています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	様々な葛藤があろうかと思われませんが、ご家族の事情や心情をおもひやりながら、一緒に悩んだり、考えたり、励ましたり、お話をさせていただいています。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	併設の老健と合同の研修会を定期的に行い、感染症についての勉強に取り組んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアル、取り決めができており、勉強会や実際に道具を使ったロールプレイ等の訓練も行っています。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	常に情報入手し、職員に注意喚起を行っています。行政等の研修の機会があれば必ず参加するようにしています。現在は行政からの情報に沿って、新型コロナウイルス感染症対策を実施しています。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	協力病院医師からインフルエンザ等、地域の感染症発生状況や情報を得ており、適宜指示もいただきながら適切に対応しています。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	徹底して実施しています。新型コロナウイルス感染症対策で現在は、特に手洗いや消毒等、各種対策を実施しています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	一か月の生活の状態をお知らせするようにしており、安心いただいています。面会時等に様子や状態を相談し、必要な物事の依頼や協力をいただいています。あまり来られない場合には文章や電話での情報交換も行っていきます。				
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶や甘い雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	いつでもお越しくださいとの応対や、椅子の用意、居室やホールで一緒に過ごせるように配慮している。感染症対策以下同文ですが、クラス越しや距離を置いて短時間の面会をいただく場合があります。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	個別の外出の依頼や希望の支援、催し物や羊飼い等の行事への参加、時にはレクに参加いただいたりしている。感染症対策以下同文。	○		○	11/1から体調管理・検温を行い、飛沫感染防護シートを挟んで5分間の面会が可能になっている。今後は、リモート面会を検討している。(今年はCOVID-19感染予防のため家族交流は中止)
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	面会時等、めったに来られない方は特に、最近のご様子の報告をしている。また、定期的な「桜通信」発行や、毎月の「生活の記録」を利用いただいている。	◎		○	季節ごとに発行する事業所便りで行事など活動を報告している。毎月、個別に生活の記録の様式で、入浴や食事、医療に関することなどの項目に沿って現状を報告している。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	◎	そのご家族が特に気にされていることを中心に報告している。				家族への報告については、面会状況を踏まえて個別に対応してほしい。それぞれに知りたい情報を聞き取り、今後も報告に工夫を重ねてほしい。
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	仲が良かったのか、どういうやり取りをされているか等を把握。現在の症状や一般的な症状であることや、こういう対応で笑顔がある、等のお話をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	都度、お手紙、電話等での報告や、施設での張り紙、運営推進会議でのお話させていただいています。	x		△	行事については、事業所便りや、個別の生活の記録、また、運営推進会議時に報告している。職員の入・退職や異動は運営推進会議時に報告している。設備改修、機器の導入などは報告していない。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	羊飼い会やお花見等、行事や家族会への参加と交流を促している。感染症対策以下同文。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時に職員と、その前後に主治医より説明と相談を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	ご希望を伺ったり、いつでもご相談いただけるよう声掛けや、お話をしている。			○	家族来訪時には、職員から先に声をかけ、様子を報告して要望等を聞いている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居前に、ご家族に運営規程、重要事項説明書を提示して、内容の説明を行い、必ず説明の時間を設け、同意の上で契約行為を行っています。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	契約に基づき、希望やご本人の状態を主治医、ご家族と相談して決定しています。医療法人の為、関係が途切れることは殆どなく、ホーム、デイケア、老健、病院の利用や、その後のこと等、いつも何らかの相談もあります。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び改定時に具体的な利用料金表を提示し説明している。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	地域の自治会には前管理者の親戚も居住しており設立当初から地域への掘出しや説明会のお世話をお願いしました。また、当時、消防署長が自治会長であった為、かなり詳細な説明をして同意を得た経緯があります。		◎		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地元自治会の各種行事への参加や合同防災訓練の実施等、年々関係が深まっています。感染症対策以下同文、連絡や情報のやり取りはしています。		○	◎	今年もCOVID-19感染予防のため、地域交流は中止しているが、7月の七夕には、園児から七夕飾りをもたらしたり、今年10月には、以前から交流のある中学校の吹奏楽部の生徒が中庭で演奏会をしてくれ、利用者に喜ばれた。
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事への相互参加や日頃のお付き合いの中で、ホームの存在を認識いただけている方が増えています。感染症対策以下同文。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	かなり積極的なお誘いをしているが、中々思うようにはいっていないのが現状です。(民生委員、自治会館へのチラシ貼り等)感染症対策以下同文。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	出入りや散歩等でお会した時には必ずご挨拶し、声を掛けて下さる方も増えています。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	相互の行事への参加等があります。その際に、お手伝いやお世話をして下さったりしています。感染症対策以下同文。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	新居浜市の介護相談員制度の導入、地域観光資源や季節の催し、ボランティアさんの催し活動の導入、更には秋の祭りでのお披露台の乗組等、ご家族や自治会、近隣、ボランティア等のご協力や老健と合同で支援等、外部との助け合いを恐れぬようにする努力をしています。感染症対策以下同文。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化、教育施設等)。	○	併設老健と共同で消防署、地域の方との防災訓練や、地元小中学校、保育園等との交流等取り組みを行っている。感染症対策以下同文。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	◎	ご家族、自治会や民生委員といった地域の方に参加いただけています。	△		△	利用者は参加していない。 家族や地域の人(自治会長など)は毎回、参加している。COVID-19感染予防のため、3・5・7・9月は書面会議を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容や取り組み状況等)について報告している。	◎	現場の職員も会議に参加しており、現場の詳細な状態、サービス内容、利用者の普段や行事での表情や様子を発信。評価の内容を会議で意思統一を図り役立っていることを報告しています。			◎	会議時には、利用者の状況、行事などの活動、職員会議、職員研修内容などを報告している。 外部評価実施後は、評価結果と目標達成計画内容を口頭で報告している。昨年の自己評価についても口頭で報告している。
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かす、その状況や結果等について報告している。	◎	ご家族や自治会の方等、参加者のご意見を直接お聞きして、ご意見を反映できるよう努力しています。			◎	会議メンバーからの意見や提案は少ないようだ。今年、1月の会議時、自治会長より「事業所の避難訓練時、地域住民の参加を増やしてはどうか」と提案があり、11月に地域住民参加で避難訓練を行った。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	現在までは一定のメンバーでの運営です。日程や時間的には特にご意見はなく、現状が出席いただきやすいようです。			◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	会議内容と議事録をセットにしてファイルし各階に閲覧可能な状態にしています。				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	入社時に説明すると共に、いつも良く見える詰所に掲示しており、全員が周知、実践するべく努力しています。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	面会に来られた皆さんにもよく見える玄関ホールに掲示して分かりやすくしています。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	老健併設のメリットで、医師、看護師、管理栄養士等から各種の研修を受けています。外部の研修にも努めて参加し、内容を他の職員と共有することでスキルアップにつながっています。資格取得を目指すようにも勧めています。				
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	桜と老健施設合同の全体研修会を主軸に年間研修項目を設定しレベルアップを図り、スキルアップできるように努力しています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	給与水準や労働時間、職場環境など、全てきちんとしており、他のホームと比較しても何ら劣ることはないと思います。超過勤務も正確に把握し、休職取得も法定通り確実に行われ、条件的には問題ないと思います。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	同業者、居宅ケアマネが来られ、様々な情報を頂くことも多く、当ホームとの違いなどを把握できることがあります。介護支援専門員連絡協議会に所属し研修会に参加しており、他ホームに同じ勉強会や交流を図り、サービスの質の向上に努めています。感染症対策以下同文。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	開設以来一番気に掛ける、表情が気になれば声を掛ける等、細心の配慮をしています。夏祭りの打ち上げや忘年会、社員旅行等の実施も行ってストレスの軽減に努めています。感染症対策以下同文。	◎	◎	○	2週間に1回、法人代表者の訪問があり、職員は意見を伝える機会がある。 法人で忘年会や、2年に1回、職員旅行など、親睦の機会をつくらせている。(今年はCOVID-19感染予防のため中止)
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	毎年、併設老健と合同研修会を実施しています。どのような行為が虐待にあたるか、虐待の種類、事例の検討等、その時々で職員が自分たちで調べ、用意した内容で発表や勉強会を実施し理解に努めています。				
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	一緒に介護にあたっており、朝と夕方の申し送りの会で話し合ったり、職員の方からも毎日の中で相談があったり、また桜の職員会議で話し合い情報を共有することもあります。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	現状では虐待や不適切なケアはないと思います。ただ、言葉遣い等で好ましくない表現等があれば、即座に指摘し、誤解を招かないように対応しています。			○	昨年11月、法人内研修で虐待について学んでいる。職員は不適切なケアを発見した場合は、「その場で話し合い管理者に報告する」とこと認識している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	この点は、開設以来一番気を遣っています。顔の表情が気になれば声を掛ける等、細心の配慮をしています。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	職員一同で全力で取り組んでおり身体拘束はありません。入職時や毎年、併設の老健と合同での研修を実施し、理解を深める努力をしています。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修会で具体的な事例について検討したり、職員会議やモニタリングの際、身体拘束の有無について検討しています。				
		c	家族等から拘束や錠剤の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	常々身体拘束は行わない旨、お話しさせていただいており、ご家族から具体的な要望はなく、ご理解いただけています。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在は対象者はおられませんが、内容の違いは承知しております。状況やご相談によって対処したいと思えます。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	現在は対象者がおられませんが、そういうお声があれば、全職員が対応できるように研修を続けて参りたいと思えます。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	新居浜市社会福祉協議会、地域包括支援センターとも平素より連携を密にし、様々な人の繋がりがりもあり、必要時に素早く対応できると思えます。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成しており、併設老健との合同勉強会等も行っていきます。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	併設老健との合同勉強会やマニュアルで研修し、実際の場合には、連携先病院や老健とも連携し順調に推移しています。連携先病院医師による指導もあり、特別な症状にも適切に対応できています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットとも作成しています。事故が何故起こったか、何故防ぐことができたか報告書を作成、職員会議で検討している。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎月の職員会議での検討と、毎日のミーティングでも注意事項を検討、申し送りし気を付けている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	マニュアルを作成し、苦情受付担当を設定しており、適切に対応しています。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	以前にご家族からのご要望には速やかに対応させていただきました。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	そうした場合には速やかに対応しています。運営推進会議に、ご家族、経営者、職員等の参加で、率直なご意見を伺い、経営者の即決で回答する場合もあります。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	ご様子を見ながら、適宜、お話を伺う機会を作っています。また、介護相談員制度導入し、率直なご意見を伺いやすくなっていると思います。				運営推進会議には参加していない。 △ 2ヶ月に1回の介護相談員の訪問時に伝える機会があるが、COVID-19感染予防のため4月から休止している。 その他にも訊く機会を工夫してはどうか。 ○ 運営推進会議に参加する家族は機会がある。電話などの折りに聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口の案内をしており、いつでもご意見いただけるよう、意見箱も設置しています。普段の面会時から何でも言っていたきやすい雰囲気にも気を付け、直接経営者も参加する運営推進会議等でも伺っています。	◎			
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約時にご案内しており、その他にいつでも分かるように貼り出しています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	必要な時には現場の職員を集めて話をしています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	常日頃、管理者は計画作成担当者等、各職員に声を掛け、意見を聞いたり、相談しやすいよう気を付け、直接進言できる雰囲気になっています。毎月の職員会議での意見も重視しています。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年1回自己評価に取り組んでいる。				外部評価実施後の運営推進会議時に、評価結果と目標達成計画内容を口頭で報告している。昨年の自己評価についても口頭で報告している。 モニターをしてもう取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	評価いただいた点について職員会議で話し合い、今後に生かせるように取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し取り組んでいます。ご家族や地域を含めてお願いすることもあり、難しさもありますが努力を続けたいと伺っています。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	目標達成計画の作成やご案内までではしていましたが、実際にそのモニターをしていただくまでの取り組みはできていません。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	職員会議での話し合いや、運営推進会議で、こんなことを行っています、との説明を行っています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	火災、地震、風水害を想定したマニュアルと訓練を実施しています。				昨年12月に、県主催の「シェイクアウト愛媛」に職員と利用者が参加した。 今年11月に、町内会と合同で防災訓練を行った。自治会長からの発信もあり、地域住民20人以上の参加があった。 災害発生時には、自治会長に一報することになっている。 さらに、家族アンケートの結果をもとにして取り組みを工夫してほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中を想定した避難訓練を計画し実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に設備の点検をしています。保安部品等については毎日点検を実施しています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	消防署立会いの防火訓練や自主避難訓練を実施。また、地元自治会との合同防災訓練を敷地内にて実施することができています。	△	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	県下一斉地震防災訓練や全国一斉土砂災害防災訓練に参加実施している。また、市の要請に答え準備し、福祉避難所として登録されています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	全体会等で研修した資料を、自治会長、民生委員さんへご提供しています。自治会で認知症やグループホーム、他の介護施設のサービスの利用等について説明や、要請があった際は研修に講師として参加をしています。				運営推進会議時に、民生委員から、地域で暮らす認知症の夫婦について相談があり、地域包括支援センターにつなげたような事例はある。 昨年10月には、社会福祉協議会の主催の「生き生きフェスティバル」で事業所のブースを出し、事業所のパンフレットを配布したり、地域住民からの相談に乗りました。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	自治会長さん民生委員さんを通して、いつでも相談に来ていただけるようご案内しています。こんな方がおられると話があり、まずはどうすべきかお話ししたり、地域の方が見学に来られたりすることもありました。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地元自治会の各種行事への参加でホームの存在を認識していただいています。隣接施設と共同で、夏祭りや春のお茶会等のイベントを開催、告知し地域の方に参加いただいています。感染症対策以下同文。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	併設老健に来る高校生の介護実習があり、ホームの見学や紹介、業務の説明等行っています。また、県のヘルパー研修事業で一定期間、実地研修として研修生が来られました。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	市や地域包括支援センターの担当者とは壁はなく、いつでも何でも相談できています。また、併設の老健や協力病院との連携もできており、いきいきフェスティバルや地域の夏祭りに参加しています。過去には要請があり介護相談員研修の講師をさせていただいたことがありました。			○	